

智頭町第 2 期総合戦略進捗結果

令和 6（2024）年度事業

令和 7（2025）年 9 月

企画課

【目次】

施策1 地域とともに健やかに暮らす・・・ 1～14

施策2 山の暮らし・・・ 15～33

施策3 智頭の魅力を伝え、智頭が好きな人を増やす
・・・ 34～40

施策4 つながる人財・仕事づくり・・・ 41～47

施策5 防災・・・ 48～55

施策6 交通・・・ 56～58

【施策1】

地域とともに健やかに暮らす

生まれてから命を閉じるまでのサポートの充実

KPI

KPI 重要業績評価目標	目標値 (2020～2026 累計)	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
出生者数	160 人	27 人	16 人	16 人	15 人
子育て講座開催回数	50 回	3 回	6 回	6 回	5 回
移住者数	70 人	20 人	19 人	31 人	29 人

産前産後や授かりにくい人へのサポート（総合計画 No.103）

多子世帯においては、第1子等との育児の両立に困難さを感じる妊産婦も多く、産前・産後サポート事業、産後ケア事業ともある程度の実績がある。家庭訪問や電話相談などは前年度と比較して少なくなってきたのはいるものの、出産や育児への不安や負担感を持つ妊産婦や支援ニーズがあることが見て取れるため、妊産婦支援、子育て支援の充実により、安心して子を産み育てられる地域づくりを今後とも継続していく。

自宅で子育てする家庭への支援や子育て講座を開催（総合計画 No.109、113）

自宅で就学前の育児をする家庭に対する給付事業はほぼ例年どおりの実績となっており、「自宅で子育て」が定着しつつある。経済的な支援はもとより、地域や家庭で子育てをする効果も期待される。

子育て支援センター利用人数については前年度と比較すると約半数となっているが、これは少子化による対象者数の低下も要因であると考えられるため、単純に利用人数が減ったと考えるのではなく、引き続き上述の給付と併せた子育て支援の充実を今後も図り、周知を強化していく。

一方で、子育て支援機能を有する施設の老朽化による維持管理費用の高騰が課題となって

いるが、利用者数の減少により施設の維持管理費については費用対効果が低い状況となっているため、他施設での開所も試験的に実施し、より効果の高い場所への移転なども検討していく。

他方で、智頭農林高等学校の学生寮が整備されたことにより、令和6年度からは県外2名の学生が通学していることは明るい話題と言える。

智頭 NEXT 実施や百人委員会への参加機会を創出し、郷土愛を育む

(総合計画 No.80、98)

令和3年度からSDG sをテーマに、ジビエキッチンカーの試食会や地元大学、都市部大学の学生と一緒にワークショップを行って百人委員会中学生提案につなげるという良質なパターンが形成されており、令和6年度も継続して実施した。令和6年度の中学生プロジェクトは「智頭町達人図鑑」制作で、冊子のほか、町のホームページにも掲載している。

近年は、小学校6年生でインプット、中学校1年生で企画提案、中学校2年生で実施という流れへシフトしている。

こども食堂、放課後児童クラブ、育カフェ等による家庭支援（総合計画 No.75、IV-5）

放課後児童クラブの運営について、県内でもトップレベルの安価な利用料でもあるため、登録者数や利用実績は非常に高いが、支援員確保並びに人員的にも費用的にも効率的な運営を目指す必要がある。

こども食堂及び学習支援教室事業については、依然として高水準の実績となっている。

様々な家庭環境に伴い、子育てに関するニーズも多様化しており、きめ細かな対応を持続可能にしていくためには、人的リソースや財政的リソースの確保が急務である。

健康ポイントによる健康意識の向上（総合計画 No.II-2）

個人でのウォーキング実施が定着し、新規参加者増につながっている。抽選で杉小判をプレゼントする取組もあり、ポイント引き換え者実績が大きく増加している。

健康体操やミニデイサービスなどによる介護予防の推進（総合計画 No.43）

介護保険計画に基づく介護予防事業（ミニデイ、脳の健康教室、百歳体操）は、各地区での取り組みが定着し、住民のフレイル予防に大きく貢献している。理学療法士の派遣も継続して行われ、実績が上がってきている。

参加者の楽しみにもなっているため、介護予防をとおして人との関わり、社会とのつながりを創出し、健康で幸福な人生を送る一助になっている。

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名		妊婦等保健相談事業の推進		所属	福祉課	SDG s	3,11
事業（細目）名		妊婦等保健相談事業			事業番号	1104	
総合計画	基本理念	地域や家族のつながりをつくるまちづくり					
	視点	家族	事業番号	2	連番	103	

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	妊娠前から出産、子育て期まで、安心して相談できる体制、環境づくりを構築する。
Plan(事業概要・計画)	妊産婦が智頭町で安心して、穏やかに過ごすことができるように、妊産婦支援、子育て支援策を充実させる。 ・母子健康手帳の交付 ・家庭訪問、面談、電話相談の実施 ・産後ケア事業、産前・産後サポート事業の実施 ・妊婦健診、産婦健診、歯科健診の費用助成 ・特定不妊治療費の助成 ・不育症検査治療費の助成 ・妊婦・子育て家庭への伴走型相談支援と経済的支援の一体的実施（出産・子育て応援交付金）

R6年度（3月末に実績見込を記入）

Do(実行)	R6実績額		4,535,915円			
活動実績を示す指標		単位	R 5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	産前・産後サポート事業	件（延）	1	1	4	400%
②	産後ケア事業	件（延）	22	5	8	36%
③	妊産婦家庭訪問・面談・電話相談	件（延）	8	5	3	38%
実施内容	・必要時、妊産婦家庭訪問、面談、電話相談を実施する。3月末時点で延3件実施。 ・妊婦一般健康診査、産後健康診査の結果を把握し、必要な妊産婦へ訪問や相談を行う。 ・産前・産後サポート事業の実施。3月末時点で延4件利用。産後ケア事業の実施。3月末時点で延8件利用。 ・各健診費用の助成、特定不妊治療費や不育症検査治療費の助成を実施。					

R6年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適應しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	・親族が遠方にいるため、支援をうけにくい妊産婦が多い。さらに第一子の育児を行う不安や第二子の妊娠であっても第一子の育児との両立に困難さを感じる妊産婦が多く、産後ケアの利用につながっている。 ・妊婦・子育て家庭への伴走型相談支援と経済的支援の一体的実施により、妊娠期から、切れ目のない支援につながっている。					

R6年度（3月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：育児の負担感をもつ妊産婦が増加しており、事業の継続が必要。				

R6年度（3月末に記入）

Action(改善)						
R6実施内容の改善及び見直しの上、R7の方針・計画	・関係機関と連携し、フォローが必要な妊産婦への家庭訪問、面談等を継続。 ・妊婦期から妊婦との関係性を築き、状況把握を行いながら、切れ目のない支援を行っていく。					

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	豊かな子育て支援の推進			所属	教育課	SDG s	11
事業（細目）名	子育て推進事務				事業番号	1784	
総合計画	基本理念	Ⅳ 地域や家族のつながりでつくるまちづくり					
	視点	家族	事業番号	8	連番	109	

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	子育て世帯の育児・教育にかかる費用を補助し、子育てがしやすい暮らしをサポートする。
Plan(事業概要・計画)	保護者の就労支援が、豊かな子育てと家庭教育に繋がると捉え、多様化する就労形態にきめ細かく対応する。

R6年度（年度末に実績見込を記入）

Do(実行)	R6実績額		7,343,000円			
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	対象者に子育て給付金制度の活用を周知	人	12	10	10	83%
②	智頭農林高校と連携した補助金交付	人	1	3	4	400%
③	対象家庭(高校生)に補助制度を周知	人	94	140	98	104%
実施内容	補助金制度を対象者に周知し活用を進めることで、制度の趣旨に沿った効果を拡大させる。					

R6年度（年度末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適應しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題						
(1)子育て給付金	就労(保育園入所)より在宅育児を選ぶためのインセンティブとして月額30千円は少額だが勤務先で育児休業手当の支給がない保護者にとって経済的な救済効果は大きい。					
(2)高校生通学費補助	居住地によって異なる通学費用が是正され、公平性が保たれている。					

R6年度（年度末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由： 育児・教育経費の負担軽減が、充実した家庭教育に繋がっている。				

R6年度（年度末に記入）

Action(改善)	
R6実施内容の改善及び見直しの上、R7の方針・計画	
・各種申請を電子申請が可能となるよう整備を進める。 ・中学３年生保護者に高校生等通学費補助金の制度案内を周知する。	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名		子育て支援センターの利用促進と母子指導の推進			所属	教育課	SDG s	11
事業（細目）名		子育て支援センター				事業番号	1786	
総合計画	基本理念	地域や家族のつながりでつくるまちづくり						
	視点	家族	事業番号	12		連番	113	

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	親子交流、子育て相談、情報提供、助言、援助を行うことで孤立感や不安感の緩和を図る。					
Plan(事業概要・計画)	乳幼児保護者の幸福感アップ ・安らぎとワクワク感がある行事を企画し、親子で集まりやすい雰囲気をつくる。 ・保育者同士の対話を増やし、繋がりによる安心感・連帯感を高めることが育児不安の緩和に繋がる。					

R6年度（年度末に実績見込を記入）

Do(実行)		R6実績額		5,826,000円		
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	利用人数	人	1,121	1,000	533	48%
②	設定保育・行事・お出かけ支援数	件	32	30	26	81%
③	子育て講座	件	6	7	5	83%
実施内容		・遊びの広場 平日9:00～16:00開設 ・毎月の行事（誕生会、作って遊ぼう、お出かけ支援） ・イベント（お楽しみ会、クリスマス会、お散歩会） ・子育て講座（ベビー＆ママヨガ講座ほか） ・ワクワクほほえみくらぶ（毎週金曜日にちづ保育園にて開所）				

R6年度（年度末に記入）

Check(確認)		100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		・支援センターの場所が遠く不便だという意見を考慮し、R6.7～毎週金曜日にちづ保育園で開所しているが客足が伸びない。一方で入園前に保育園の様子を知れて嬉しいという声もある。引き続き他施設での開所も行い、立地場所により集客率に変化が生じるのか検証していく。 ・少子化により利用者が減少傾向かつ同じ顔ぶれとなっている。支援センターの存在を知らない家庭への周知、呼び込みにより活気づけたい。				

R6年度（年度末に記入）

評価	C	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	C	評価理由： 子育て支援センターの利用者数が激減しているため。				

R6年度（年度末に記入）

Action(改善)	
R6実施内容の改善及び見直しの上、R7の方針・計画	
・利用者が安らぐ空間づくりと仲間づくりに繋がる行事の企画を行う。 ・子供達が広々と遊べる空間と玩具の種類の多さからも施設としての利用価値は高いが、利用者の減少により施設の維持管理費については費用対効果が低い。少子化により更なる利用者の減少が見込まれるなか、立地場所や開所日数も含め改善の余地が見られる。	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	ちづNEXT	所属	企画課	SDG s	11、17
事業（細目）名	百人委員会			事業番号	1895
総合計画	基本理念	子どもから大人まで学びと成長のまちづくり			
	視点	学び	事業番号	14	連番 80

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	中学生が智頭町のことを学習することで郷土愛を育み、その経験を活かし百人委員会の企画提案の立案や実践に繋げる。				
Plan(事業概要・計画)	・小学6年生、中学生の総合学習で智頭町に関する学習を実・百人委員会総会の開催（3月） ・授業を通して、百人委員会企画提案会に繋げる。（10月～12月）				

R6年度（11月末に実績見込を記入）

Do(実行)		R6実績見込額		千円		
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績見込)	対前年比(%)
①	ちづNEXT（授業）	回	19	15	16	84%
②	担当教諭との打ち合わせ	回	19	15	15	79%
③						
実施内容		6年生・・・ちづNEXT授業（4回）、打ち合わせ（2回） 1年生・・・ちづNEXT授業（5回）、打ち合わせ（3回） 2年生・・・ちづNEXT授業（4回）、打ち合わせ（5回） 3年生・・・ちづNEXT授業（3回）、打ち合わせ（3回）				

R6年度（11月末に記入）

Check(確認)		100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適應しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		・各学年が昨年度学んだことを継承しながら協議・授業を重ね、企画提案（中1、中2）や事業実施（中3）に繋げた。 ・小6については学校の思い（歴史をテーマとしたい）を踏まえ、教育委員会と連携しながら協議・授業を重ねた。 ・今年度は3名のコミュニティースクールの地域コーディネーターとも連携して事業を行った。				

R6年度（11月末に記入）

評価	A	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由： 3ヶ年で計画的に郷土愛を育むプログラムが成熟してきている。				

R6年度（11月末に記入）

Action(改善)	
R6実施内容の改善及び見直しの上、R7の方針・計画	
・R7は事業実施学年が2学年（中2・中3）となるため、年度の早い段階からスケジューリングを行う必要がある。 ・R6は特に小6・中3の始動が遅れ、学校行事等も相まって苦慮した。前年度末に来年度序盤の授業スケジュールを打合せしておく必要あり。 ・役場と学校との業務線引き、コミスクとの連携など、教育委員会や学校とも改めて協議が必要。	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名		百人委員会		所属	企画課	SDG s	11、17
事業（細目）名		百人委員会			事業番号	1895	
総合計画	基本理念	子どもから大人まで学びと成長のまちづくり					
	視点	仲間づくり	事業番号	11	連番	98	

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	町民がまちづくりに参加し、町をよりよくしようという意識を醸成する。				
Plan(事業概要・計画)	・百人委員会各部会の開催（随時） ・百人委員会総会の開催（3月） ・百人委員会学生の部（中学生）を計画的にフォロー ・百人委員会企画提案会の開催（12月）				

R6年度（11月末に実績見込を記入）

Do(実行)	R6実績見込額 8,513,000円					
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績見込)	対前年比(%)
①	今年度企画提案数	件	11	12	15	136%
②	百人委員会委員数	人	94	100	94	100%
③	企画実行数	件	10	11	11	110%
実施内容	・百人委員会各部会の部会実施 ・次年度企画提案 一般の部11件、学生の部 高校生2件・中学生2件 ・運営委員会の開催3回 ・百人委員会総会の開催（3月）					

R6年度（11月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	・各部会事務局との連携が薄かった。 ・町民に向けた活動の周知・理解の促進に向けた活動が出来ていなかった。 ・新規部員の加入が無かった。					

R6年度（11月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：各部会で前向きな活動ができるよう後方支援を強化していく。				

R6年度（11月末に記入）

Action(改善)	
R6実施内容の改善及び見直しの上、R7の方針・計画	
・各部会事務局との連携を高める動きが必要（事務局連携会議の実施等）。 ・町民に向けた活動の周知・理解の促進に向けた活動をより強化していく（町民ライターの活用等） ・新規部員入会の促進を行う（例：移住者が窓口補助金等の相談に来た際、取り次いでもらい勧誘する等）	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	学校と家庭の連携による良好な生活習慣の定着	所属	教育課	SDG s	4・11
事業（細目）名	家庭教育学級事業			事業番号	1199
総合計画	基本理念	Ⅲ 子どもから大人まで学びと成長のまちづくり			
	視点	①学び	事業番号	9	連番 75

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	保護者と共に育む家庭教育及び豊かな子育ての推進				
Plan(事業概要・計画)	・多様化する生活と家庭環境に関わらず、保護者の充実した子育てにより親子の良好な関係構築を応援する。 ・保護者の不安や困り感を早期に把握できる体制を整え、関係機関と協力して課題解消を図る。				

R6年度（11月末に実績見込を記入）

Do(実行)		R6実績見込額		492,000円		
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績見込)	対前年比(%)
①	小学校1年生の家庭訪問を実施	回	1	1	1	100%
②	子育て講座の開催	回	0	6	1	
③						
実施内容		・福祉課と共に小学1年生の家庭訪問を実施 ・保小中の保護者を対象とした子育て講座を実施				

R6年度（11月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		・保護者同士の横の繋がりをつくったり、子育て力を高めるような機会の創出が必要である。				

R6年度（11月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：保護者の子育て力の向上に向けた取り組みがなされている。				

R6年度（11月末に記入）

Action(改善)					
R6実施内容の改善及び見直しの上、R7の方針・計画		・親子で過ごす場として、毎月1回開催している育カフェの新規利用者増を図る。 ・生涯学習講座等との連携でイベント実施を検討したい。			

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	学校と家庭の連携による良好な生活習慣の定着			所属	教育課	SDG s	4・11
事業（細目）名	放課後児童クラブ				事業番号	1199/1861	
総合計画	基本理念	Ⅲ 子どもから大人まで学びと成長のまちづくり					
	視点	①学び	事業番号	9	連番	75	

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	子供の健全育成を目的とした放課後の居場所づくりと保護者の就労支援
Plan(事業概要・計画)	友達同士の遊びが画一化する現代では、児童クラブでの過ごし方が子供の社会性を育む大切な要素である。 ・子供の人格を尊重した関わりに努め、情緒の育ちと自己肯定感を高める。 ・保護者の就労支援が豊かな子育てと家庭教育に繋がると捉え、多様化する就労形態にきめ細かく対応する。

R6年度（年度末に実績見込を記入）

Do(実行)	R6実績額		12,591,000円			
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	利用児童の登録人数	人	94	100	102	109%
②	支援員のスキルアップ研修実施	回	4	8	8	200%
③						
実施内容	・3名の支援員が放課後児童支援員認定資格研修を受講した他、個別に対応が必要な子供に関するカンファレンスを行った。					

R6年度（年度末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適應しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	・広い施設環境で、子供達が身体をつかった遊びができる。 ・子供同士のトラブル対応、保護者・関係機関との情報連携について共通認識を図る。 ・支援の必要な子供や異学年が同じ空間に集まるため、トラブルが起きやすい。					

R6年度（年度末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
----	---	----	----	------	----	----

担当課長評価

評価	B
----	---

評価理由：	支援が必要な子供の受入れも行っており、就労家庭の支援に貢献している。
-------	------------------------------------

R6年度（年度末に記入）

Action(改善)	R6実施内容の改善及び見直しの上、R7の方針・計画
・トラブルが起きた際の子供への対応や保護者・関係機関への情報連携等の強化。 ・夏季休業における暑さ対策、遊びの工夫（遊戯室にはエアコンがなく小学校体育館を開放したが、体育館へ移動する子供が少なかった）。	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	世帯を横断する低所得者対策事業			所属	福祉課	SDG s	11
事業（細目）名	生活保護総務費				事業番号	2011	
総合計画	基本理念	一人ひとりの個性を活かしながら支え、つながる家族					
	視点	家族	事業番号	21	連番	122	

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	生活に困り感がある方やその家族が地域で安心して生活出来る。
Plan(事業概要・計画)	最後のセーフティネットである生活保護に至る前に、生活生活困窮者の経済的な自立のみならず、社会的な自立に向けた支援を行う。

R6年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)		R6実績額				
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	重層的支援会議の開催	回	12	12	12	100%
②	支援検討ケース件数	回	14	15	11	79%
③						
実施内容		・多機関で支援会議の開催 ・包括的相談支援(訪問、電話、同行) ・支援プラン作成等)				

R6年度（3月末に実績を記入）

Check(確認)		100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		生活保護に至る前に、あるいは保護脱却の段階での自立支援を実施。 生活困窮者支援のための地域づくり事業、アウトリーチを通じた継続的支援事業を委託。				

R6年度（3月末に実績を記入）

評価	A	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	A	評価理由： 困り事を抱える方が地域で生活を送るために継続的な実施が必要。				

R6年度（3月末に実績を記入）

Action(改善)	R6実施内容の改善及び見直しの上、R7の方針・計画
重層的支援会議における多機関連携・庁内連携をはかり包括的相談支援を実施していく。	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名		健康ポイント事業			所属	福祉課	SDG s	
事業（細目）名		健康ポイント事業			事業番号		2023	
総合計画	基本理念	安全・安心に暮らせる健康長寿のまちづくり						
	視点	健康	事業番号		連番	Ⅱ -2		

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	健康ポイント事業を通して健康への意識を高め、元気で長生きできるまちづくり				
Plan(事業概要・計画)	・ウォーキンググループへの登録通知（4月） ・広報で住民に周知（4月）				

R6年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)	R6実績額		247,500円			
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	ポイント引き換え者数	人	140	225	214	153%
②						
③						
実施内容	・ウォーキンググループへの登録通知（4月） ・ウォーキング実施者にウォーキングポイントを付与 ・広報で住民に周知（4月） ・20ポイント達成者には杉小判1,000円と引き換え					

R6年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適應しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	ウォーキンググループ登録が増え、健康への意識が高まっている。 個人でのウォーキング実施に対するポイントの付与制度をより周知して頂く為に、さらなる広報活動が必要。					

R6年度（11月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：対象者拡大等により、登録者が増加している。				

R6年度（11月末に記入）

Action(改善)					
R6実施内容の改善及び見直しの上、R7の方針・計画	ウォーキンググループにすでに登録している人を別のグループで登録しないよう確認する。 年々利用者が増加傾向にあるため、ポイント付与できる取り組みの拡大を図る。				

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	介護予防事業の推進			所属	福祉課	SDG s	3、11
事業（細目）名	重層的支援体制整備事業(介護・地域介護予防活動事業)				事業番号	2105	
総合計画	基本理念	安全・安心に暮らせる健康長寿のまちづくり					
	視点	健康	事業番号	10	連番	43	

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	地域における介護予防活動の推進					
Plan(事業概要・計画)	・介護予防活動の地域展開を支援。 ・フレイル予防のための教室開催支援。 ・森のミニデイ、集落の実施（委託）。					

R6年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)		R6実績額		10,060,570円		
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	いきいき脳元気教室参加延人数	件	1,813	1,838	1,884	104%
②	森のミニデイ実施箇所	箇所	6	6	6	100%
③	集落ミニデイ実施箇所	箇所	35	35	35	100%
実施内容		・住民主体の通いの場（森のミニデイ・集落ミニデイ）の運営を地区振興協議会や社会福祉協議会に委託。 ・いきいき脳元気教室の開催。				

R6年度（11月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適應しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		・毎週通え、みんなで顔を見合わせ話ができる場があることを喜んでいる方が多く存在している。 ・脳元気教室の宿題を毎日することが日課となり定着化し、住民のフレイル予防に大いに貢献していると考ええる。 ・フレイル予防に資するボランティアの育成及び活動が必要。				

R6年度（3月末に実績を記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：フレイル予防活動の地域展開を継続して行っていく必要がある。				

R6年度（3月末に実績を記入）

Action(改善)						
R6実施内容の改善及び見直しの上、R7の方針・計画		・いきいき脳元気教室は、週に2クラス設け、それぞれ20数名ずつ参加している。令和6年度脳元気教室参加者の卒業生も数名参加している。今年度の脳元気教室の参加者も終了後はいきいき脳元気教室へつなぐ予定。 ・より智頭町らしいフレイル予防活動の地域展開を進めるため、関係機関・地域住民とともに検討を行う。				

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名		介護予防事業の推進			所属	福祉課	SDG s	3、11
事業（細目）名		介護予防普及啓発事業				事業番号	2038	
総合計画	基本理念	安全・安心に暮らせる健康長寿のまちづくり						
	視点	健康	事業番号	10		連番	43	

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	介護予防の推進					
Plan(事業概要・計画)	・介護予防の一環として、認知症予防のため脳の健康教室を実施。（1クール4ヶ月間） ・3ヶ月間の介護予防体操教室を実施。					

R6年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)	R6実績額		1,110,389円			
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	脳の健康教室参加実人数	人	12	15	12	100%
②	フレイル予防教室参加者実人数	人	18	20	20	111%
③						
実施内容	・くもん式脳の健康教室を9/3～12/24までの1クール（4ヶ月間）実施。 ・介護予防教室（1クール3ヶ月間）をJa-んぐるに委託し実施。65歳～75歳未満の人へ個別通知をし、4ヶ月間（全12回）のプログラムに励むことにより、運動機能の改善・向上に努める。今回より栄養口腔について内容も加え、更にフレイル予防を推進する。また、定期的に各地区で開催されている体操教室を案内し、各地区の体操教室の活性化を図る。					

R6年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	・脳元気教室は、1クール4ヶ月と長期であるせいか、11月末時点で2人脱退者があった。運営期間等検討していく必要がある。 ・フレイル予防教室は、体調不良等で毎回欠席する人が何人かいる。栄養口腔の講話が好評であった。各地区の活動につなげるよう支援したが、100%つながったとは言えない。					

R6年度（3月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：介護予防推進のため、継続的な実施が必要。				

R6年度（3月末に記入）

Action(改善)	
R6実施内容の改善及び見直しの上、R7の方針・計画	
・脳元気教室については、1クールを4ヶ月から3ヶ月に短縮し実施予定。 ・フレイル予防教室については、来年度も栄養口腔の講話は継続し、個別対応についても検討する。	

【施策 2】

山の暮らし

山の生業を守り、つなぎ、里山で暮らす誇りを育てる

K P I

K P I 重要業績評価目標	目標値 (2020～2026 累計)	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
新規林業従事者数	70 人	2 人	4 人	5 人	1 人
移住者数（農林業）	27 人	2 人	6 人	3 人	1 人
多面的機能支払交付金取組組織数	30 組織	—	—	2 6 組織	2 7 組織

適切な森林整備と山林資源を活用した多様なニーズへの対応（総合計画 No.11、17）

町の基幹産業である林業を持続的に発展させていくためには、これを担う人材の確保と育成が欠かせない。智頭林業に関する幅広い講座や、林業に必要となる技術研修等の開催を支援してきたことにより、新規担い手の確保と育成につながっている。

また、林業機械の導入を支援し、作業の低コスト化による経営の安定化を図り、間伐等適切な森林整備を進めている。

持続的な山林経営の推進に向けた担い手の確保・育成（総合計画 No. I -2）

森林経営管理法（平成 3 1 年 4 月施行）に基づき始まった森林経営管理制度は、森林所有者自らが整備を行うことができない森林の経営を、林業事業者か町にゆだねる制度である。本町は、この制度に県下でいち早く取り組んできたことから、意向調査から計画作成、森林整備（間伐）の流れが定着している。今後も、この制度を活用しながら、整備が遅れている森林への対応を着実に進めていく。

次世代に繋げていくための農村環境の維持（総合計画 No.6、9）

「マルチフォレスター」は、事業者のニーズに応じて智頭町複業協同組合から派遣される林業の担い手であり、通年での雇用が難しい小規模事業者と多様な働き方を求める若者のい

ずれのニーズにも沿った取組として、雇用は年々増加している。

農地保全施策として、中山間地域等直接支払交付金事業、多面的機能支払交付金事業を引き続き推進するとともに、地区座談会や集落座談会を通じて集落での話し合いのきっかけづくりを進め、小規模農家も守りながら、担い手への農地集積や地域の集団的な取り組みにつなげていくことが重要である。

また、河川の上流域に位置する本町では、流域治水対策にも貢献できる「田んぼダム」を積極的に推進している。令和6年度末で5組織（対前年比＋1組織）が取り組み、令和7年度にはさらに2組織が取組を開始する見込みである。

豊かな自然環境が育む「ホンモノの農産物」の供給体制づくり（総合計画 No.12、16）

家庭菜園野菜ブランド化の母体となっていた智頭野菜新鮮組が、令和5年度末で活動を終了した。農産物の持続可能な供給体制づくりについて、再考する必要がある。

また、自然栽培は、移住者を含めた新たな担い手の参入のきっかけとなっているため、引き続き新規就農支援を進めていく。

鳥獣被害対策の推進（総合計画 No.20）

鳥獣被害対策については、「侵入を防止する対策」、「個体数を減らす対策」、「ジビエ利用」を並行して進めている。

捕獲頭数はピーク時よりも減少したものの、近年は微増傾向にある。猟友会と連携しながら引き続き有害駆除を進めるとともに、農家のニーズに応じて侵入防止柵の設置支援を進めていく。

ジビエ利用については、町内での消費を含む販路拡大が課題である。令和6年度からペットフードの開発等が進んでいるほか、令和7年度には町内2軒目となる解体処理施設が開業予定であり、引き続き関係団体等との連携によりジビエの普及・販売促進支援を進めていく。

林道、作業道の開設、改良及び適切な維持管理（総合計画 No.5）

智頭町の基幹産業である林業の施業安定化、セラピーロードなどの観光施設へ至る交通インフラ確保のため、林道維持管理は重要な位置づけとなっている。

森林セラピー事業について（総合計画 No.25、47）

森林セラピー体験者数は、新型コロナウイルスの感染拡大期に大きく落ち込み、5類移行後も従来の数に戻っていない。（R3：213人、R4：691人、R5：522人、R6：531人）

引き続き、関係団体等と連携しながら、地区セラピーロードの活用等さまざまな取組により森林セラピーの利用を推進していく。また、都市部企業の人事担当や産業医を対象としたセミナーの開催等を通じて、企業研修プログラムの販売を検討していく。

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名		林業の郷		所属	山村再生課	SDG s	15
事業（細目）名		山と暮らしの人づくり事業			事業番号	2085	
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり					
	視点	仕事	事業番号	10	連番	11	

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	林家として必要な技術等を幅広く学べる研修会開催を支援し、新たな担い手の確保と育成を図る。				
Plan(事業概要・計画)	・自然に満ちた生活実践と林業を生業とすることを志す者に対し、その基礎となる知識・技術等を伝授する教育塾を行う。 ・自伐型林業に取り組む若手に対して、技術研修を実施し、生業として自伐型林業に取り組む担い手を育成する。 ・林業従事者としての定着を促進する。				

R6年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)	R6実績額		3,222,805円			
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	智頭の山人塾参加者数	人	522	500	577	111%
②	自伐型林業研修会参加者数	人	94	150	97	103%
③	新規就労支援者数	人	0	1	0	
実施内容	・智頭の山人塾開催支援 ・自伐型林業研修会開催支援					

R6年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	令和6年度は、水を通して下流域に影響を与える「山づくり」を考える研修を実施。森林整備に必要な知識だけでなく、林業に従事する者の倫理観や意識づけに繋がっており、また外部からの受講生には智頭林業への興味関心を高めることができた。					

R6年度（3月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由： マンネリ化しないよう、新しい切り口の研修開催ができています。				

R6年度（3月末に記入）

Action(改善)					
R6実施内容の改善及び見直しの上、R7の方針・計画					
・智頭の山人塾、自伐型林業研修会で連携し、内容、対象者、開催時期等を調整し、より効率的な研修会を開催する。					

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名		低コスト林業の推進			所属	山村再生課	SDG s	15
事業（細目）名		美しい森林づくり基盤整備事業				事業番号	1906	
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり						
	視点	仕事	事業番号	18		連番	17	

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	森林の持つ公益的機能の高度発揮及び、維持増進を目的とした森林整備を推進					
Plan(事業概要・計画)	森林の持つ公益的機能の高度発揮及び、維持増進を目的とした森林整備(間伐・作業道開設)に必要な経費の支援を行う。					

R6年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)		R6実績額		16,358,515円		
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	間伐面積	ha	55.25	65.68	18.93	34%
②	作業道延長	m	4,040	8,628	2,200	54%
③						
実施内容		森林の持つ公益的機能の高度発揮及び、維持増進を目的とした森林整備(間伐・作業道開設)に必要な経費の支援を行う。				

R6年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		森林経営計画樹立が困難な小規模事業体でも事業実施が可能な点が、非常に有効な事業である。そのため、小規模面積での間伐、作業道開設の支援が可能となっている。				

R6年度（3月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価		評価理由：集約化が困難な森林に対応ができる有効な事業				
評価	B					

R6年度（3月末に記入）

Action(改善)						
R6実施内容の改善及び見直しの上、R7の方針・計画		国交付金事業であり、県嵩上げもある補助事業となっており、町負担が比較的少ない事業。そのため、なるべく多くの林業事業体が本事業を活用するよう誘導していく必要がある。				

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名		低コスト林業の推進			所属	山村再生課	SDG s	15
事業（細目）名		森づくり作業道整備事業			事業番号		1654	
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり						
	視点	仕事	事業番号	18		連番	17	

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	健全な森づくりへの積極的な取組を促進し、労働負荷や素材の搬出コスト低減を図る					
Plan(事業概要・計画)	作業道の開設を支援					

R6年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)		R6実績額		15,438,551円		
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績見込)	対前年比(%)
①	作業道開設延長	m	13,243	11,250	7,052	53%
②						
③						
実施内容		作業道の開設を支援				

R6年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適應しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		例年、計画どおりの実績をあげている。 壊れにくい作業道の作設を推進する必要がある、路網線形の指導等が不可欠。				

R6年度（3月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価		評価理由：おおむね計画どおりの実績をあげている。				
評価	B					

R6年度（3月末に記入）

Action(改善)						
R6実施内容の改善及び見直しの上、R7の方針・計画		路網線形の指導等が不可欠であるため、研修等開催の際には、作業道にかかる研修開催を優先事項として検討。				

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名		低コスト林業の推進			所属	山村再生課	SDG s	15
事業（細目）名		林業事業体等支援事業				事業番号	2053	
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり						
	視点	仕事	事業番号	18		連番	17	

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	健全な森づくりへの積極的な取組を促進し、労働負荷や素材の搬出コスト低減を図る。					
Plan(事業概要・計画)	林業機械の整備、リースを支援 （「智頭林業」機械化促進事業）					

R6年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)		R6実績額		879,000円		
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	林業機械整備支援	台	2	1	1	50%
②	林業機械リース支援	台	1	1	1	100%
③						
実施内容		鳥取県林業再生事業における県単機械整備、以外支援を受けている事業体に対してその経費を支援。				

R6年度（3月末に記入）

Check(確認)		100%	75%	50%	25%	0%
評価項目	評価内容					
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		例年計画どおりの実績をあげている。 県では皆伐を実施する事業体の補助率を上げ、それ以外は下げている仕組みとなっているため、そういった県の施策状況も勘案しながら事業内容の変更も検討する必要がある。				

R6年度（3月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価		評価理由： 計画どおりの執行となっている。				
評価	B					

R6年度（3月末に記入）

Action(改善)		R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画				
		低コスト林業の推進には機械化が不可欠。 また機械を導入することにより、現場作業の軽減化、安全化を図り労働環境を改善し担い手の確保に繋げる。				

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名		森林経営管理制度の推進			所属	山村再生課	SDG s	
事業（細目）名		森林経営管理推進事業				事業番号	2082	
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり						
	視点	環境整備	事業番号			連番	I-2	

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	森林経営管理法に基づく、新たな森林管理システムの実施					
Plan(事業概要・計画)	森林経営管理法に基づく、新たな森林管理システムの実施					

R6年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)		R6実績額		1,146,200円		
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	意向調査対象森林面積	ha	21.38	74.87	74.55	349%
②						
③						
実施内容		森林経営管理法に基づく、新たな森林管理システムの実施				

R6年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適應しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		計画どおり新たな森林管理システムが実施できている。				
		課題として、14ヵ年計画箇所と地籍調査結果の反映済箇所にズレが生じているため、計画を見直す必要がある。				

R6年度（3月末に記入）

評価	A	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価		評価理由：効率的に新たな森林管理システム実施ができている。				
評価	A					

R6年度（3月末に記入）

Action(改善)		
R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画		
		令和元年度に策定した実施計画に対し、地籍調査結果の反映が追いついていないため、今後は県が示した要整備森林(放置すると下流の集落等に影響する箇所)を含めた施業必要箇所の意向調査も検討していく。

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名		次世代を担う林業後継者の確保・育成、自伐林家の育成		所属	山村再生課	SDG s	15
事業（細目）名		林業事業体等支援事業			事業番号	2053	
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり					
	視点	仕事	事業番号	5	連番	6	

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	林業後継者、自伐型林業に取り組む人材の確保・育成を行い、林業就労者の増加を目指す。				
Plan(事業概要・計画)	・労働災害防止対策として防護ズボン等の購入を支援することで安全意識の向上を目指す。 ・雇用開始から5年目までの新参入者の社会保険料の事業主負担を支援し、事業体の新規雇用を促進する。 ・若手林業家の確保・育成のため、智頭町複業協同組合が雇用した林業マルチワーカーの育成活動を支援する。				

R6年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)		R6実績額		6,029,492円		
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	防護衣服購入支援者数	人	0	0	0	0%
②	社会保険料支援者数	人	3	4	3	100%
③	林業マルチワーカー雇用者数	人	2	0	6	300%
実施内容		・防護ズボン等購入支援 ・林業事業体における現場作業員の社会保険料（健康保険、厚生年金）の事業主負担の支援 ・林業マルチワーカーの人材派遣経費、住居・通勤手当、物品購入費、資格取得経費に対する支援				

R6年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		林業マルチワーカーについては、就労希望が多い中で、専門的な知見をもった智頭町複業協同組合が適切な人材を採用しており、期待した効果が得られている。				

R6年度（3月末に記入）

評価	A	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	A	評価理由：高い効果が得られており、今後も期待が出来る。				

R6年度（3月末に記入）

Action(改善)					
R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画					
林業マルチワーカーの採用希望者が増加している中、新たな派遣先の確保が課題。					
林業マルチワーカーの課題点や更なる人材育成に向けて事業を進めていく必要がある。					

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名		次世代を担う林業後継者の確保・育成、自伐林家の育成		所属	山村再生課	SDG s	15
事業（細目）名		山と暮らしの人づくり事業			事業番号	2085	
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり					
	視点	仕事	事業番号	5	連番	6	

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	林業後継者、自伐型林業に取り組む人材の確保・育成を行い、林業就労者の増加を目指す。					
Plan(事業概要・計画)	・自伐型林家等を育成する。 ・智頭林業を支えてきた架線集材技術を継承する。 ・林業従事者としての定着を促進する。					

R6年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)		R6実績額		822,805円		
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	自伐型林業研修会開催支援	人	94	150	97	103%
②	架線集材技術継承支援	人	1	1	1	100%
③	新規就労支援	人	0	1	0	0%
実施内容		・自伐型林業研修会開催支援 ・架線集材技術継承支援 ・新規就労支援				

R6年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		町内森林整備の現場が奥地化しており、今後急勾配な森林整備が必要となってくることが予想されるため、架線集材技術の継承が重要であり、事業の普及が課題。				

R6年度（3月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：架線集材による森林整備は毎年実施されている。				

R6年度（3月末に記入）

Action(改善)	
R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画	
「智頭の山と暮らしの未来ビジョン」の実現に向けて現地研修を開催しているが、今後も引き続き架線集材技術取得にかかる支援は必要。	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名		遊休農地の解消に向けた活動への支援			所属	山村再生課	SDG s	15
事業（細目）名		中山間地域等直接支払交付金事業			事業番号		1859	
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり						
	視点	仕事	事業番号	8		連番	9	

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	生産条件の不利性を補正し、農業生産の維持と多面的機能の確保を図る。					
Plan(事業概要・計画)	中山間地域であるため農業生産条件が不利な地域において、農業生産活動を継続するための支援。					

R6年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)		R6実績額		57,825,393円		
R6年度（実績）		単位	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	協定数（集落・個別）	協定	38	38	38	100%
②	対象面積	m ²	3,168,600	3,201,372	3,201,372	101%
③						
実施内容		・第5期対策集落協定の認定（36集落協定・2個別協定）、集落戦略の策定（36集落協定中12集落協定策定済） ・現地巡回による実施状況（草刈り等の保全活動）の確認（株式会社サングリーン智頭へ委託） ・日本型直接支払交付金事業の説明会（全協定を対象に総合センターで実施。6/28）				

R6年度（3月末に記入）

Check(確認)						
6年度（実績）	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適應しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		昨年度に引き続き農地の保全活動を行っていただいた。 担い手や後継者不足により、対象農地が減少傾向にあったが、集落座談会や個別相談等の成果により、対象農地面積が微増している。若い世代の活動参加や、新たな担い手の掘り起こし等が課題であり、他事業との連携も深める。				

R6年度（3月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由： 広域化や新規加入の推進だけでなく、事務局体制の構築が必要。				

R6年度（3月末に記入）

Action(改善)						
R6年度（実績）		取組が継続できるよう制度の再周知も含め、各協定に助言、指導を行う。 新規認定組織の増加や、既存組織の広域化を目指し、集落座談会や広報、説明会等での周知徹底を図る。 令和7年度は、第6期対策が始まるので、組織に対して制度の変更点等の周知をしっかりとしていく必要がある。				

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名		遊休農地の解消に向けた活動への支援			所属	山村再生課	SDG s	15
事業（細目）名		多面的機能支払交付金事業			事業番号		2006	
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり						
	視点	仕事	事業番号	8		連番	9	

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	集落の農地、農業用施設や農村環境を地域ぐるみでの共同活動等により良好な保全と資的向上を図る。					
Plan(事業概要・計画)	・事業計画の再認定（1組織）、事業計画の新規認定（1組織） ・現地巡回による実施状況（草刈り等の保全活動）確認（株式会社サングリーン智頭へ委託） ・流域治水のための田んぼダムの取組推進					

R6年度（3月末に実績を記入）

R6年度（実績）		R6実績額			14,962,360円	
活動実績を示す指標		R6実績額	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	対象組織数	組織	26	27	27	104%
②	対象面積	a	24,131	25,453	25,453	105%
③						
実施内容		・事業計画の新規認定（1組織）、再認定（1組織） ・現地巡回による実施状況（草刈り等の保全活動）の確認（株式会社サングリーン智頭へ委託） ・日本型直接支払交付金事業の説明会（全組織を対象に総合センターで実施。6/28）				

R6年度（3月末に記入）

R6年度（実績）		100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		昨年度に引き続き、農地の保全活動を行っていただいた。また、1組織で新たに田んぼダムの取組をはじめ、流域治水に寄与した。 担い手や後継者不足により、対象農地が減少傾向にあったが、集落座談会や広報で制度の再周知を図り、新規認定1組織を追加することができた。一方で、若い世代の活動参加や、新たな担い手の掘り起こし等が課題であり、他事業との連携も深める必要がある。				

R6年度（3月末に記入）

6年度（実績）	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価		評価理由：事務局体制構築の支援が必要。				
評価	B					

R6年度（3月末に記入）

R6年度（実績）										
R6実施内容の改善及び見直しの上、R7の方針・計画										
取組が継続できるよう制度の再周知も含め、各組織に助言・指導を行う。 新規認定組織の増加や、既存組織の広域化を目指し、集落座談会や広報等での周知徹底を図る。 流域治水の取組を強化のため、引き続き田んぼダムの取組を斡旋し、より効果を高めるため、取組組織数や面積増加を目指す。										

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名		遊休農地の解消に向けた活動への支援			所属	山村再生課	SDG s	
事業（細目）名		農地中間管理事業			事業番号		2007	
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり						
	視点	仕事	事業番号	8		連番	9	

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	担い手等への農地利用集積・集約化を図り、遊休農地の解消を目指す。					
Plan(事業概要・計画)	農地の有効利用の継続や農業経営の効率化を進める中心的担い手（認定農業者や人・農地プランの中心経営体等）への農地利用の集積・集約化を図る。					

R6年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)		R6実績額		167,785円		
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	事業活用件数	件	5	10	68	1360%
②						
③						
実施内容		農地中間管理機構を通じた利用権設定件数68件、設定面積75,827㎡と集積を図った。				

R6年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適應しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		農地中間管理機構を通じた利用権設定件数68件、設定面積75,827㎡と集積を図った。 令和7年度から基盤法による利用権設定が廃止となり、機構法に基づく利用権設定に移行していくことになるため、地域計画の策定に合わせて周知を徹底し、適切な農地保全を推進する。				

R6年度（3月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価		評価理由： 地域計画に基づく農地保全の推進が必要。				
評価	A					

R6年度（3月末に記入）

Action(改善)						
R6実施内容の改善及び見直しの上、R7の方針・計画		これまで、集落の中心経営体等への集積・集約化を進めていたが、国の方針が地域計画に基づく地域の総力戦へと転換されたため、集落ごとに策定した地域計画に基づいた農地保全を推進していく。				

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名		多様な消費者ニーズに応える農産物づくりの推進（自然栽培）		所属	山村再生課	SDG s	15
事業（細目）名		ホンモノの農産物づくり推進事業			事業番号	1953	
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり					
	視点	仕事	事業番号	11	連番	12	

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	自然栽培への理解を深め、実践及び普及するための研修会等の開催、並びに新たな自然栽培の担い手の確保、耕作放棄地の解消を図り、農業の振興と地域の活性化を図る。				
Plan(事業概要・計画)	①自然栽培の担い手育成事業（新規2名）				

R6年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)		R6実績額		2,215,000円		
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	自然栽培新規就農者支援	人	6	7	6	117%
②	自然栽培普及促進支援	団体	1	0	0	0%
③						
実施内容		①自然栽培新規就農者の支援を新たに1名行った。 ②特定非営利活動法人自然栽培そらみずちへの普及促進支援は、今年度は行っていないが、それにかわる意見交換会・研修会を令和7年1月に開催。				

R6年度（3月末に記入）

Check(確認)		100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		本町の特色ある取り組みであり、多様なニーズに応えていくための体制づくりが必要。 担い手の育成等、実施方法や成果をよく検証しながら進めていく必要がある。				

R6年度（3月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価		評価理由： 自然栽培をはじめ多様な農業の担い手の確保により遊休農地解消につなげていくべき				
評価	B					

R6年度（3月末に記入）

Action(改善)	R6実施内容の改善及び見直しの上、R7の方針・計画				
今後も特定非営利活動法人自然栽培そらみずちとの連携により自然栽培を広めていき、自然栽培野菜の付加価値を高めていくことが必要。					

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名		有害鳥獣対策（侵入を防ぐ対策、個体数を減らす対策）への支援			所属	山村再生課	SDG s	
事業（細目）名		鳥獣等被害防止事業				事業番号	1776	
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり						
	視点	仕事	事業番号	21		連番	20	

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	本町ならではの町産ジビエ等の資源を有効活用し、これらを地域内で循環利用する社会を構築する。					
Plan(事業概要・計画)						
①侵入を防ぐ対策	ニホンジカ・イノシシの侵入防止柵の導入支援等					
②個体数を減らす対策	ニホンジカ・イノシシ・カラス等の有害鳥獣の捕獲、銃所持者の射撃技術向上、中型獣からの農業被害の防止					
③町産ジビエの振興	町内で捕獲された有害個体を町産ジビエとして有効活用し、地域内で循環利用していく。					

R6年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)		R6実績額		11,708,094		
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	侵入防止柵の整備延長	m	1,583	500	1,598	101%
②	ニホンジカ・イノシシ捕獲頭数（有害のみ）	頭	428	600	697	163%
③						
実施内容						
・侵入を防ぐ対策		侵入防止柵の整備支援				
・個体数を減らす対策		イノシシ・ニホンジカ、カラス捕獲の委託、猟友会射撃練習の開催				
・町産ジビエの振興		智頭町をフィールドとした、狩猟者の育成研修（ジビエハンター研修）を実施				

R6年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題						
		侵入を防ぐ対策と個体数を減らす対策を併せて実施することにより、農業被害の軽減等の効果が出ている。また、有害鳥獣駆除の推進にあたっては猟友会の協力が不可欠であるが、現役猟師が高齢化する中、令和6年度中に若手を含めた猟師が8名新規で加入し、特に若手会員の増加を図ることができた。引き続き猟友会と協力しながら、有害鳥獣の駆除を行い、農業被害の軽減を目指す。				

R6年度（3月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：引き続き、被害防止計画に基づき、鳥獣被害防止への注力が必要				

R6年度（3月末に記入）

Action(改善)						
R6実施内容の改善及び見直しの上、R7の方針・計画						
		R6に智頭町猟友会に8名の新規加入があり、会員数増加の推進の成果が現れ始めている。引き続き、会員数を増やす取組を進めると共に、町産ジビエのPRにも注力し、併せて、知識や技術のさらなる獲得のための狩猟、止め差し・解体講習会等の取組が必要。				
		町産ジビエの供給安定のために、百人委員会獣害対策部会、ちづDeer's、智頭町猟友会などの関係機関で連携を強化する必要がある。				

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名		林道整備の推進及び既設林道の維持管理の実施		所属	地域整備課	SDG s	9
事業（細目）名		林道維持事業			事業番号	1158	
総合計画	基本理念	安全・安心に暮らせる健康長寿のまちづくり					
	視点	②環境整備	事業番号	6	連番	5	

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	町有林道等の適切な維持管理
Plan(事業概要・計画)	・町管理林道等の適切な維持管理を行い、利用者の安全を図る。

R6年度3月末に実績を記入）

Do(実行)	R6実績額		16,759,787円			
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	修繕費	千円	3,996	2,000	1,999	50%
②	手数料	千円	6,754	3,259	2,986	44%
③	工事請負費	千円	11,024	11,100	10,283	93%
実施内容	(工事) 林道慶所線路肩修繕工事、林道西宇塚観音寺線道路維持工事、林道大井谷線路肩修繕工事、 林道中ノ津線防護柵修繕工事、林道沖ノ山線舗装修繕工事、林道沖ノ山線横断溝修繕工事。 (修繕) 林道牛臥線路肩修繕、林道東谷線路面修繕、 林道西宇塚観音寺線コルゲート修繕。外3件					

R6年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適應しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	近年の豪雨により、林道維持管理の負担は大きくなっている。修繕改良が必要な箇所が多くある。すべてに対応することは難しく、安定した財源確保に努めながら、利用者の安全を図っていく必要があるが、計画的に修繕などの発注ができていなかった。					

R6年度（3月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	C	評価理由：	事務的なこととして、財源的に厳しいながらも計画的な修繕などができていない			

R6年度（3月末に記入）

Action(改善)						
R6実施内容の改善及び見直しの上、R7の方針・計画	今後も地元要望など、必要に応じ事業化を県に訴える。 また、大雨等による突発的な事象に即時対応することに加えて、定期的に現場確認を行い、予算の範囲内で計画的に修繕などを実施する必要がある。					

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	林道整備の推進及び既設林道の維持管理の実施		所属	地域整備課	SDG s	9
事業（細目）名	公共林道事業			事業番号	1159	
総合計画	基本理念	安全・安心に暮らせる健康長寿のまちづくり				
	視点	②環境整備	事業番号	6	連番	5

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	町有林道等の適切な維持管理
Plan(事業概要・計画)	・ 智頭町には27路線の町有林道が存在している。国庫補助を活用し、それらの林道の舗装や修繕を行っている。

R6年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)	R6実績額		24,328,700円			
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	委託料	千円	8,547	0	0	0%
②	工事請負費	千円	0	24,500	24,328	
③						
実施内容	林道西宇塚観音寺線舗装工事					

R6年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	森林施業の促進において重要な施策であり、予算確保が厳しい中でも効率的に実施していく必要がある					

R6年度（3月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：	舗装後にも計画的に維持修繕を図る必要があり、積極的な事業促進ができない			

R6年度（3月末に記入）

Action(改善)	
R6実施内容の改善及び見直しの上、R7の方針・計画	
今後も地元要望など、必要に応じ事業化を県に訴える。	
また、大雨等による突発的な事象に即時対応することに加えて、定期的に現場確認を行い、予算の範囲内で計画的に修繕を実施する必要がある。	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名		森林セラピー商品の開発			所属	山村再生課	SDG s	8,12
事業（細目）名		森林セラピー事業				事業番号	1896	
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり						
	視点	仕事	事業番号	26		連番	25	

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	地域の活力創造と疎開の町として癒しの里づくりを進めるため、新たな商品・プログラムの構築を推進。					
Plan(事業概要・計画)	・企業研修プログラムの販売及び企業のニーズに合わせたプログラムの販売。 ・他の森林サービス産業とのコラボレーションプログラムの販売。 ・田舎暮らし体験の活用。					

R6年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)		R6実績額				1,349,416円
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	森林セラピーセミナー等の開催	回	2	2	2	100%
②	うつ病を患者を対象としたデータ収集	回	0	1	0	
③	企業研修の実施	回	1	5	2	200%
実施内容		・連携協定締結企業と共同でHR EXPO等に出店。ストレスチェック後のエスカレーション先としてPRを実施。 ・うつ病患者のデータ収集は、担当精神科医の体調不良により中止。 ・智頭町森林セラピーアプリを廃止し、SNS等を活用した情報発信を行った。				

R6年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		新型コロナ特需が明け、これまで訪問を制限されてきたいわゆる「定番観光地」の需要は高まったままである。新型コロナ流行前に比べ低調ではあるものの、県内観光地の観光需要は回復傾向にある。今後、定番観光地に集中したオーパーツーリズムや関西万博を契機にしたインバウンド需要の地方分散に備える必要がある。				

R6年度（3月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由： 県内観光地への観光需要が回復傾向にある。				

R6年度（3月末に記入）

Action(改善)						
R6実施内容の改善及び見直しの上、R7の方針・計画						
		定番観光地に集中したオーパーツーリズムやインバウンド需要の地方分散、関西万博開催に備え、鳥取県・とっとり因幡グリーンツーリズム推進協議会と連携した研修やPR営業活動に注力する。				

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名		町民の健康増進のためのセラピーロードの活用		所属	山村再生課	SDG s	12,15
事業（細目）名		森林セラピー事業			事業番号	1896	
総合計画	基本理念	安全・安心に暮らせる健康長寿のまちづくり					
	視点	健康	事業番号	14	連番	47	

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	森林セラピーの普及啓発及びプランの実施検証。					
Plan(事業概要・計画)	・森のガイド養成講座・ガイドフォローアップ講座を開催する。 ・町福祉課や各地区振興協議会等と連携し、森林セラピーの利用を推進する。					

R6年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)		R6実績額				2,544,023円
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	森のガイド養成講座・ガイドフォローアップ講座開催	回	14	12	14	100%
②	町民セラピーデー等開催	回	2	2	3	150%
③						
実施内容		・教育委員会と連携する歴史の道×ポール・ウォークイベントは、町内現場崩落・西栗倉村開催のため連携を断念。 ・町福祉課と連携して健康ポイント事業を実施。町民の森林セラピーガイド料を無料とし、利用を促進。 ・土師地区振興協議会と連携し、天木森林公園コースのウッドチップ敷設作業を実施。				

R6年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		・直近認定ガイドのデビューについて、本業が森林セラピー活動時期と重なる者（林業、農業事業者、協力隊等）のデビュー見込みが立っていない。R6.4月認定の13期生については0人、12期生については3人に留まる。 ・R6年度は各地区振興協議会と協議を重ね、計画通りにイベントが実施できた。				

R6年度（3月末に記入）

評価	A	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由： 地区セラピーロードを活用したイベントを夏・秋に実施できた。				

R6年度（3月末に記入）

Action(改善)						
R6実施内容の改善及び見直しの上、R7の方針・計画						
		・林農関係者に拘らずガイドデビューに結びつきやすい近隣市町へ営業を行い、森のガイド養成講座を開催する。 ・地区セラピーロードのPRを実施し、地元町民の利用を促進する。 ・引き続き各課、各地区振興協議会と連携して、事業実施を継続する。				

【施策3】



智頭の魅力を伝え、智頭が好きな人を増やす

自然の恵みとつながり、生活文化を丁寧に伝え、次世代に受け継ぐ取り組み

KPI

KPI 重要業績評価目標	目標値 (2020～2026 累計)	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
観光入込客数	140,000 人／年	62,381 人	69,709 人	97,781 人	93,155 人
来館者数（図書館）	48,000 人／年	50,941 人 (累計 72,155)	48,871 人 (累計 121,026)	49,492 人 (累計 170,518 人)	52,400 人 (累計 222,918 人)
貸出利用者数	—	14,288 人	12,874 人	13,217 人	12,590 人
民泊利用者数	500 人／年	18 人	186 人	118 人	154 人
移住者数（ちづみち）	5 人	0 人	0 人	0 人	0 人

智頭の暮らしを丁寧に伝える民泊を推進（総合計画 No.24）

新規民泊家庭の確保と受入態勢の強化のため、各種研修会を開催しているが、ピーク時に比べ、民泊家庭数・民泊利用者数ともに減少している。

令和6年度は、令和元年6月以来となる教育旅行の受入を行ったことで、民泊家庭の意欲向上につながった。

実際に民泊を体験された方の満足度は非常に高く、リピーターも少なからずあること、今後も教育旅行等の大口需要が継続していく見込みであることから、事業継続のための受入態勢強化は急務である。

新智頭図書館の地域資料コーナーの充実とまちとつながる事業実施

（総合計画 No.82, 88）

開館から3年以上経過し、令和6年度末で累計来館者が20万人を超すなど、大きな実績があがっている。展示やイベントなど、地域団体や百人委員会教育文化部会が中心となって事業提案をし、賑わいの創出につながっている。

保育園、小学校、中学校も図書館活用を積極的に奨励しているが、中学校での利用が若干少ないという調査結果もあるため、親子、友達、学校、地域などあらゆる世代が図書館に触れ合う機会の創出を、町をあげて行うことが期待される。

麒麟のまち圏域連携事業（総合計画 No.129）

令和4年度末に智頭町観光・移住定住ビジョンを策定し、短期的滞在である観光から、中長期的な移住定住につながる施策を進めている。

その中で、麒麟のまちツアーなどにより、麒麟のまち圏域観光を入口とした集客は効果的な手段と言える1市6町の枠組みのスケールメリットを活かし、圏域の魅力向上に努めていかななくてはならない。

一方で、町民ライターの数が増えていないが、投稿内容の質向上によるフォロワー数の増加がみられる。

令和6年度から、地域おこし協力隊インターン制度を活用した「遊ぶ広報事業」を展開しており、今後も智頭町での中期滞在プログラムによる関係人口の創出と、SNSによる情報発信を強化していく予定である。

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名		智頭町まると民泊の積極的推進			所属	山村再生課	SDG s	8
事業（細目）名		智頭町まると民泊事業			事業番号	1972		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり						
	視点	仕事	事業番号	25	連番	24		

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	民泊を通じ多くの方に本町を訪れてもらい、地域の活性化につなげ第2のふるさととなるよう推進する。					
Plan(事業概要・計画)	・民泊を通じ多くの方に本町を訪れてもらい、地域の活性化に繋げるとともに、都市住民の第2のふるさととなるよう事業を推進。 ・ワンランク上のおもてなし提供、各家庭のおもてなし力を智頭町のおもてなしレベルに引き上げる。 ・民泊家庭同士の交流を活発に行う。					

R6年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)		R6実績額			21,944円	
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	新規民泊受入家庭の増	軒	1	3	0	0%
②	民泊レベルアップのための研修会	回	3	4	3	100%
③						
実施内容		・協議会活動活性化と休眠家庭の掘り起こしのため、全家庭訪問を実施。 ・教育旅行の受入れを再開し、11月に埼玉県の高校から59名の団体が宿泊。				

R6年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズと総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		・簡易宿所営業許可新規登録0軒。 ・新型コロナ流行前に比べ低調ではあるものの、民泊利用者数が回復傾向にある。				

R6年度（3月末に記入）

評価	C	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由： 安定的な受入れ態勢確保のための町民向けPR方法に工夫が必要。				

R6年度（3月末に記入）

Action(改善)						
R6実施内容の改善及び見直しの上、R7の方針・計画						
家庭交流会や研修を継続し、ワンランク上のおもてなし力の全家庭定着を図る。						
安定した民泊受入態勢を整えるため、町民向けに「智頭町まると民泊」をPRする方法を再検討する（智頭まちゼミ参加・町民向け民泊家庭の料理教室など）。						

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名		図書館を中心にした賑わい創出			所属	教育課	SDG s	4
事業（細目）名		図書館費			事業番号		1770	
総合計画	基本理念	川子どもから大人まで学びと成長のまちづくり						
	視点	①学び	事業番号	18	連番	82		

R 6 年度（4月記入）

Goal(目標)	住民に愛され必要とされる場となることを目指す
Plan(事業概要・計画)	・図書館を多くの住民に知ってもらうことにより、利用だけでなく図書館を中心にした新たな住民の交流を目指す。 ・関係課や関係団体との協議により、図書館だけでなく新たな賑わいを創出する幅広い事業を実施する。

R 6 年度

Do(実行)		R 6 実績		45,000円		
活動実績を示す指標		単位	R 5	R 6 (計画)	R 6 (実績)	対前年比(%)
①	講座・講演会等の開催	回	2	2	2	100%
②	地域への出前講座	回	5	7	7	140%
③	地域と連携した事業実施	回	27	33	29	107%
実施内容		・ 地域との連携事業（講座6回、展示23回） ・ ボランティアと連携した事業委託（開館4周年記念） ・ 地域への出前講座 ・ 図書館Webサイトの充実 ・ 講演会、講座の開催				

R 6 年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適應しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		・新図書館開館後、多くの方から連携した事業提案をもらい実施することができた。 ・開館から4年を迎え、さらに図書館から広がる賑わいの創出について取り組む必要がある。 （新図書館開館後延入館者 205,000人 11月15日現在）				

R 6 年度

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：多様なニーズに対応したサービスを実施し、住民との連携を図っている。				

R 6 年度

Action(改善)						
R 6 実施内容の改善及び見直しの上、R 7 の方針・計画		・住民が求める多様な活動が、自主的に実施できる場となれるように地域との連携を図る。 ・図書館サービスについての広報に努め、図書館が住民の居場所や交流の場所となることを周知する。				

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名		図書館事業		所属	教育課	SDG s	4
事業（細目）名		図書館費			事業番号	1770	
総合計画	基本理念	川子どもから大人まで学びと成長のまちづくり					
	視点	①学び	事業番号	24	連番	88	

R 6 年度

Goal(目標)	住民の生涯学習拠点として、資料を整備し図書館サービスと読書事業の展開を図る。				
Plan(事業概要・計画)	・図書館サービスの充実と新規図書館利用者の開拓 ・子どもの読書環境の整備 ・地域資料の充実 ・高齢者の読書活動の支援 ・図書館利用啓発事業				

R 6 年度

Do(実行)		R 6 実績見込額		42,139,757円		
活動実績を示す指標		単位	R5実績	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	新規利用者登録数	人	203	220	215	106%
②	1人あたりの貸出冊数	冊/年	9	9	8.5	94%
③	延貸出利用者数	人	13,217	13,000	12,590	95%
実施内容		・ 保育園、学校図書館との連携 ・ 図書館Webサイト、Facebookの活用 ・ 地域資料寄贈の呼びかけと献本の受入 ・ あたまイキイキ音読教室などの事業実施 ・ 図書館資料の見直し、蔵書の整備				

R 6 年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	・図書館サービス計画に基づいた今後の実施が重要になる。住民利用を勧奨し、改訂に向けた内容を検討していく。 ・地域資料をはじめ、図書館資料の見直しを始めている。地域に必要とされる蔵書の整備が必要となる。 ・保育園、小学校、中学校等との連携による子どもの読書活動の推進を図っている。					

R 6 年度

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：住民の生涯学習拠点として図書館運営を行い、利用者増を図れている。				

R 6 年度

Action(改善)	
R 6 実施内容の改善及び見直しの上、R 7 の方針・計画	
・策定した図書館サービス計画を住民の姿から見直し、検討を行い充実させる。 ・図書館サービスや利用について、住民への周知を図り、利用者を広げる。	

< 様式2附属 >

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	各文化サークルの活動支援と参加者の加入促進			所属	教育課	SDG s	4・11
事業（細目）名	文化振興事業				事業番号	1195	
総合計画	基本理念	子どもから大人まで学びと成長のまちづくり					
	視点	学び	事業番号	19	連番	83	

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	智頭町文化協会の活動支援、文化活動の参加、サークルへの加入促進、学習意欲向上				
Plan(事業概要・計画)	・加盟団体における活動の充実 ・はばたけねりんピック（囲碁会場）の運営 ・文化振興を図る ・文化芸術に触れる機会の創出				

R6年度（年度末に実績を記入）

Do(実行)		R6実績額		5,587,316円		
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	智頭町文化祭来場者数	人	400	400	441	100%
②	代表者会の開催	回	10	12	10	120%
③						
実施内容		・文化協会団体への活動支援(17団体) ・文化祭（展示：11月9日、10日 芸能：12月1日） ・文化振興事業（8月） ・会報誌「こだま」発行（3月） ・視察研修（南部町・江府町）（6月）				

R6年度（年度末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適應しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		・加盟団体会員の高齢化、会員数の減少により各団体も危機感を持っている。 ・文化祭のマンネリ化、出展・出演者数の減少が課題であり、内容の充実、来場者を増やす仕掛けが必要である。				

R6年度（年度末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：住民の成果発表や生きがいとなる活動であり、継続させたい。				

R6年度（年度末に記入）

Action(改善)					
R6実施内容の改善及び見直しの上、R7の方針・計画					
		・各加盟団体で、引き続き後継者の確保、加入促進に向けて活動を継続する。 ・他市町村文化協会と交流し、文化祭の改革を図る。			

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名		東部圏域をはじめとする近隣自治体との連携による移住定住促進及び広域観光事業		所属	企画課	SDG s	17
事業（細目）名		移住定住促進事業			事業番号	1741	
総合計画	基本理念	Ⅳ 地域や家族のつながりでつくるまちづくり					
	視点	仲間づくり	事業番号	14	連番	129	

R6年度

Goal(目標)	鳥取市、岩美町、八頭町、若桜町、新温泉町、香美町と連携することにより、県外の人にイメージをもってもらいやすくし、観光PRや移住定住相談等の推進を図る。					
Plan(事業概要・計画)	・圏域内の自治体と連携し、移住相談会を開催する。 ・魅力発信事業による町のPRを推進する。					

R6年度

Do(実行)		R6実績額				
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	移住相談会への参加	件	1	1	1	100%
②	町民ライター数の増加	人	11	12	6	55%
③						
実施内容		・麒麟のまちとして「おいでや！田舎くらし」フェアに参加 ・町民ライターを活用した町の魅力発信				

R6年度

Check(確認)		100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適應しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		・町民ライター数は減少しているが、計画的にコンスタントな投稿を行うことや、投稿内容の質向上により、フォロワー数やいいね数など着実に増加している。				

R6年度

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
----	---	----	----	------	----	----

担当課長評価

評価	B	評価理由：引き続き町民ライター等を活用して町の魅力発信を行う。
----	---	---------------------------------

R7年度

Action(改善)	R7実施内容の改善及び見直しの上、R7の方針・計画
・移住促進及び観光客増加をしていくため、中核市である鳥取市との連携し効果的なPR方法について協議を重ねる。 ・新規取組の「遊ぶ広報事業」も活用し、関係人口の創出に繋げていく。	

【施策4】



ながる人材・仕事づくり

人や仕事の垣根をとり、つながりやすい仕組みをつくる

KPI

KPI 重要業績評価目標	目標値 (2020～2026 累計)	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
雇用の創出	10 人	0 人	2 人	3 人	3 人
疎開保険加入者数	200 人	61 人	104 人	131 人	175 人
おせっかい奨学 パッケージ寄付額	5,000 千円	1,634 千円	1,106 千円	2,445 千円	3,252 千円
移住者数（有資格 者移住施策と仕事 づくり）	5 人	0 人	1 人	0 人	0 人

さまざまな世代が集まれる場づくり（総合計画 No.IV-4）

まちのコイン活用イベントとして「てごガチャ」を開催。体験で貯めた「てご」で智頭杉製ガチャを引くことができ、子供から大人まで好評であった。

今後の様々なイベントでもこの「てごガチャ」の活躍が期待される。

おせっかい奨学パッケージの推進（総合計画 No.133）

おせっかい奨学生は現在 91 名（前年度比較+13）の登録があり、順調に増加中。うち 13 名が U ターンしており、さらにその内 2 名が役場就職している。

奨学生限定インターンプロジェクト、奨学生交流会、おせっかい川柳、おせっかい協賛企業募集など様々な企画を打ち出しているが、近年、町職員で組織する「おせっかいメンター」と奨学生との関係が希薄傾向にあり、様々な企画を案内しても奨学生の参加者が少ない状況が続いている。町民や町内企業へのおせっかい認知を広げていくための事業を今後も展開していく。特におせっかい協賛企業は 10 社（R6 現在 8 社）と大きく伸びており、町内企業の賛同の輪が広がっている。

おせっかい奨学金の原資となる企業版ふるさと納税は2社1,300,000円の実績あり。

疎開保険事業、ふるさと納税の推進（総合計画 No.126）

令和5年度に「疎開保険 NFT」を初めて導入し、ブロックチェーン上に権利を書き込む仕組みを実践。サービス内容は同じであるが、新しい入口として今後が期待される。

疎開体験ツアー、返礼品発送は人気コンテンツの一つで、智頭町ならではの体験を広く PR していきたい。

住居付き有資格者移住施策（総合計画 No.48、50）

智頭病院の医師及び看護師の確保は最も重要な案件の一つ。

研修医や学生の研修受け入れを行っているが、看護師や医師不足は依然として深刻な状況。

スキマ時間、スキマスキルの活用マッチング

令和3年度に設立された智頭町複業協同組合は、現在参画企業15社、雇用8名で運営されており、マルチフォレスター、マルチワーカー派遣や副業人材を活用しながら、地域の担い手不足、ノウハウ不足の解消、新規プロジェクト創出支援を行うことで、智頭町らしい持続可能な成長モデルを推進している。

令和6年度から新たな地方創生推進事業として新規創業支援を実施しており、中間支援組織（CHIP s コンソーシアム）を組成し、スタートアップしやすいまちを目指し取組を進めていく。

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	人と地域をつなぐまちのコイン導入事業			所属	企画課	SDG s	11.17
事業（細目）名	地方創生推進事業				事業番号	2032	
総合計画	基本理念	Ⅳ 地域や家族のつながりでつくるまちづくり					
	視点	仲間づくり	事業番号	新	連番	Ⅳ-4	

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	R3年度に本導入したまちのコインの利活用を促進する。				
Plan(事業概要・計画)	- 各種イベントに抱き合わせてまちのコインの利用場所を増やす。 - 運営団体候補者の選出・育成				

R6年度（3月末に実績見込を記入）

Do(実行)		R6実績額		6,563,700円		
活動実績を示す指標		単位	R5(実績)	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	スポット数	件	49	60	55	112%
②	ユーザ数	人	746	600	1110	149%
③	イベント回数	回	15	12	4	27%
実施内容		- 観光デジタルスタンプラリーの実施（2周年記念イベント） - 普及イベント「てごガチャ」の実施 - 各種イベント（雪まつり、よさこい祭りなど）との連携				

R6年度（3月末に実績見込を記入）

Check(確認)		100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適應しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		- イベント等に併せてまちのコインを絡めているため認知度は向上している。 - ガチャを活用したイベントが好評であった。				

R6年度（年度末評価を記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由： 認知度は向上しているが、実際に利用される機会を増やす対策が必要				

R6年度（年度末改善方針記入）

Action(改善)	R6実施内容の改善及び見直しの上、R7の方針・計画				
・各種イベントにまちのコインを絡め町内に波及させていく。 ・ガチャを恒常化し、アクティブ利用率を高める。 ・スポットを増やし、まちのコインの利用場所を増やす。					

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名		おせっかい奨学パッケージの推進		所属	企画課	SDG s	17
事業（細目）名		おせっかい奨学パッケージ推進事業			事業番号	2086	
総合計画	基本理念	Ⅳ 地域や家族のつながりでつくるまちづくり					
	視点	③ 仲間づくり	事業番号	20	連番	133	

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	子どもたちの学びたい気持ちを支援し、町外で学ぶ間もおせっかいでの町、町民とのつながり続け、子どもたちの町への愛着を育てる。				
Plan(事業概要・計画)	・おせっかい協賛企業やおせっかい川柳を募集し、町内外への周知を図る。 ・交流会、インターンプロジェクトにより、奨学生と地域がつながる仕組みをつくる。 ・メンターが発行する「月刊おせっかい」により顔の見える関係性をつくる。				

R6年度（11月末に実績見込を記入）

Do(実行)	R6実績見込額 7,471,000円					
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績見込)	対前年比(%)
①	寄附（企業版ふるさと納税含む）	円	2,445,316	3,600,000	3,600,000	147%
②	おせっかい協賛企業	社	5	8	8	160%
③	月刊おせっかい発行	号	34	46	46	135%
実施内容	・企業版ふるさと納税2社 ・おせっかい川柳 首応募（前年度57首） ・おせっかい協賛企業8社 ・月刊おせっかい～43号 ・インターンプロジェクト（1名参加） ・おせっかい交流会（6名参加）					

R6年度（11月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	・インターン、交流会とも参加者あり（6名デジタル村民証交付済）。 ・信用金庫との連携説明会で13家庭が参加。 ・都市部企業へのふるさと納税PR。					

R6年度（11月末に記入）

評価	A	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	A	評価理由：	Uターン奨学生が増えるような働きかけが必要。			

R6年度（11月末に記入）

Action(改善)					
R6実施内容の改善及び見直しの上、R7の方針・計画	・企業版ふるさと納税をいただいた企業（1社）から、奨学生との交流を希望する依頼あり。 ・奨学生へ対するデジタル村民証の発行 ・保護者への働きかけ				

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名		疎開保険事業		所属	企画課	SDG s	17
事業（細目）名		疎開保険事業			事業番号	1951	
総合計画	基本理念	地域や家族のつながりで作るまちづくり					
	視点	仲間づくり	事業番号	6		連番	126

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	加入者へ町の特産品を送ることで智頭町について興味を持ってもらい、関係人口の創出を図るとともに町内生産者の収入向上に繋げ地域活性化を目指す。				
Plan(事業概要・計画)	・疎開保険加入者への特産品送付 ・疎開保険のPR活動の実施（疎開保険体験ツアー） ・疎開保険NFTの発行				

R6年度（年度末に実績を記入）

Do(実行)		R6実績見込額		2,100,733円		
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	加入口数（3月31日時点）	口	69	80	87	116%
②	特産品送付	回	1	1	1	100%
③	疎開保険NFT	口	4	4	4	100%
実施内容						

R6年度（年度末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適応しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題						
・事務フロー、申込用紙、協定書の内容を見直し、事務事業の効率化・改正を図った。 ・特産品送付(77口) ・疎開保険ツアー実施 ・加入促進のためYoutube広告でトライアル運用を行い、疎開保険の動画は2カ月間に10万回視聴を記録した。 ・今年度より販売した疎開保険NFTは完売(1人コース、2人コース、3-4人コース)						

R6年度（年度末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：実際の受け入れに関する仕組みが整っておらず、事業内容は形骸化				

R7年度（年度末に記入）

Action(改善)			
R6実施内容の改善及び見直しの上、R7の方針・計画			
・疎開保険ツアーの参加枠拡大（10→）			
・Youtube広告の出展を検討			

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名		看護師確保対策の強化			所属	智頭病院	SDG s	
事業（細目）名		看護師奨学金制度				事業番号		
総合計画	基本理念	安全安心に暮らせる健康長寿なくらし						
	視点	健康	事業番号	15		連番	48	

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	奨学金活用者の看護師免許取得や入職に結びつける。					
Plan(事業概要・計画)	看護学校等在学者への新規奨学金利用の呼びかけ。					

R6年度（年度末に実績見込を記入）

Do(実行)		R6実績額			0円	
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	新規奨学金受給者	人	0	3	0	
②	継続奨学金受給者	人	0	2	0	
③	智頭病院就業者	人	0	1	0	
実施内容		看護師養成機関に対しパンフレットを配布。 高等学校訪問による制度紹介。				

R6年度（年度末に実績のチェックを記入）

Check(確認)		100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		学生・就業者ともに新規の利用がない。 多くの医療機関で奨学金制度が実施され、市部の病院の奨学金が選ばれる傾向にある。				

R6年度（年度末に評価を記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由： 資格取得や新規入職に寄与するため、引き続き実施する。				

R6年度（年度末に改善方針を記入）

Action(改善)	
R6実施内容の改善及び見直しの上、R7の方針・計画	
看護学校在学生への奨学金利用の呼びかけと、東部の高等学校への奨学金制度のPRにより新規利用を募る。 看護学校在学生へのPRのため、採用募集要項の配布とともに奨学金制度の紹介を行う。 エリアを広げて、近隣の看護学校にも制度紹介を行う。	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名		医師確保対策の強化		所属	智頭病院	SDG s	
事業（細目）名					事業番号		
総合計画	基本理念	安全安心に暮らせる健康長寿なくらし					
	視点	健康	事業番号	17	連番	50	

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	病院事業継続のため医師確保を図る。				
Plan(事業概要・計画)	鳥取県・鳥取大学、その他関係機関への医師派遣要請 院内保育所の整備、医師住宅の確保 研修医、実習生への広報				

R6年度（11月末に実績見込を記入）

Do(実行)		R6実績		600,452千円		
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	研修医の受入	人	5	3	5	100%
②	学生の受入	人	0	1	2	
③						
実施内容		研修医の受入時に智頭病院と智頭町での取組等をPRすることが出来た。				

R6年度（11月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		県派遣医師については、一定数を確保することは出来ている。 年度途中で医師の減員が生じた場合の確保策が必要。				

R6年度（11月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：さらなる働きかけが必要。				

R6年度（11月末に記入）

Action(改善)					
R6実施内容の改善及び見直しの上、R7の方針・計画	中堅医師確保のための取組として、基幹病院との連携を模索。				

【施策 5】

防災

防災情報の迅速な伝達方法

KPI

KPI 重要業績評価 目標	目標値 (2020～2026 累計)	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
支え愛マップ 作成率	75 集落 (85%)	57 集落	60 集落	60 集落	62 集落	62 集落
消防団員数	400 人	403 人	388 人	363 人	347 人	339 人
自主防災組織 数	75 組織	76 組織	78 組織	78 組織	78 組織	78 組織

各団体間の連携を速やかに正確に行う（総合計画 No.65）

国土強靱化地域計画（第 2 期）及び個別業務計画を 3 月に改訂。要旨は、各所管におけるインフラ維持管理の状況を整理した上での見直しである。人命・救助活動・行政機能・情報通信・地域経済・ライフライン・二次被害・復旧の視点に基づく備えを確認するための計画。

集落支え愛マップと連携した防災マップの活用が重要。

地域住民の防災意識を高め、日常的に災害時への備えを啓発（総合計画 No.123）

支え愛マップの新規作成集落、防災活動支援事業申請集落の実績が少なく、社会福祉協議会と連携した啓発が必要。マップ見直しのための継続活動については定期的に実施できており、マップ作成ができている集落とできていない集落との防災に関する意識の差が懸念される。

また、集落単位での活動も重要だが、那岐地区のように地区単位での避難訓練を勧奨するなど、集落高齢化に伴う広域化も重要と思われる。

消防団活動を充実させ、強化する（総合計画 No.124）

本町は県内でもトップクラスの団員保有率を誇り、各訓練のクオリティや災害時の出動実績は非常に高水準を維持している。町民の生命、財産を守る組織として更なる強化と持続可能な取組が求められる。引き続き消防衣やヘルメット等の装備品の充実、また、無線及び車両、ポンプ等の更新を図る必要がある。

町道の開設、改良及び適切な維持管理（総合計画 No.55）

道路等のインフラ長寿命化や強靱化にかかる事業は全国的に拡充されており、おおむね老朽化が著しい町道橋の修繕は対応が終了しつつある。

一方で林道橋梁の長寿命化の重要性も指摘されており、将来的な財政負担が懸念される。

智頭町の地理的特徴上、豪雪や土砂崩れ等で主要路線がふさがれた場合、ライフラインが寸断されてしまう危険性があるため、国や県と連携しながら道路整備を計画的に進めていく必要がある。

第7次総合計画進行管理検証シート【R6年度実績検証用】

事業名	災害対策体制の確立	所属	総務課	SDG s	
事業（細目）名	防災費	事業番号	1181		
総合計画	基本理念	地域や家族のつながりでつくるまちづくり			
	視点	仲間づくり	事業番号	24	連番 65

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	災害による死傷者を発生させない
Plan(事業概要・計画)	・国土強靱化地域計画（第2期）の策定 ・国土強靱化地域計画の個別業務計画改訂

R6年度（年度末実績を記入）

Do(実行)		R6実績額		77,000円		
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①						
②						
③						
実施内容						
		・国土強靱化地域計画（第２期）の策定（３月末） ・国土強靱化地域計画の個別業務計画改訂（３月末） ・web版ハザードマップ運用				

R6年度（年度末実績時のチェックを記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適応しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題						
		・ 国土強靱化地域計画（第２期）の策定（３月末） ・ 国土強靱化地域計画の個別業務計画改訂（３月末）				

R6年度（年度末評価を記入）

評価	A	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価		評価理由： 国土強靱化地域計画の個別業務計画改訂が完了できた。				
評価	A					

R6年度（年度末改善方針を記入）

Action(改善)	
R6実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画	・県のデータ更新に応じてマップの更新を行う。 ・支え愛マップづくりとからめ、防災マップの活用に注力する。 ・国土強靱化個別事業の見直しにより、全庁的に国土強靱化への取組を共有する。

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	自主防災組織の育成および活動支援			所属	総務課	SDG s	
事業（細目）名	防災費				事業番号	1181	
総合計画	基本理念	地域や家族のつながりでつくるまちづくり					
	視点	仲間づくり	事業番号	1	連番	123	

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	自主防災組織（支え愛マップ作成済自治会）率100%					
Plan(事業概要・計画)	- 自治会（自主防災組織）向け防災活動用補助金を活用した地域防災活動の支援。 - 支え愛マップづくりを支援する。→説明会の開催、実施支援。					

R6年度（年度末実績を記入）

Do(実行)		R6実績額		198,000円		
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	みんなで取り組む防災活動支援事業費補助金活用	自治会	2	3	1	50%
②	支え愛マップづくり	自治会	1	2	0	0%
③						
実施内容		- 補助金活用自治会：河三、水島（町報6月号に補助金の記事掲載） - 支え愛マップづくり支援：（更新）13集落				

R6年度（年度末実績時のチェックを記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適應しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		支え愛マップづくり事業について、令和6年度は13団体が更新を実施した。				

R6年度（年度末評価を記入）

評価	C	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	C	評価理由：支え愛マップづくりの更なる取り組みが必要。				

R6年度（年度末改善方針を記入）

Action(改善)						
R6実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画						
		- 支え愛マップづくりの新規作成、更新作業を社協と共に呼びかける。 - 補助金についての問い合わせもあることから関心・ニーズは少なからずあると思われるため、広報回数を増やし、活用を呼びかける。				

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	消防団活性化対策の推進	所属	総務課	SDG s	
事業（細目）名	非常備消防費	事業番号	1179		
総合計画	基本理念	地域や家族のつながりでつくるまちづくり			
	視点	仲間づくり	事業番号	2	連番 124

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	消防団活動を継続させる。
Plan(事業概要・計画)	- 消防団員の装備の充実を図る。 - 消防団員の処遇改善。（報酬等）

R6年度（年度末実績を記入）

Do(実行)		R6実績額		25,924,636円		
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	消防団員数	人	347	339	339	98%
②						
③						
実施内容		・ 団員報酬の個人支払を行った。 ・ 消防団員数を維持するために、戸別訪問を行い勧誘する。				

R6年度（年度末実績時のチェックを記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適応しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題						
・ 団員報酬等の処遇改善と併せて幽霊団員等の処遇見直しを行っている。						

R6年度（年度末評価を記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価		評価理由：団員報酬等の処遇改善を実施した。団員確保の継続が課題。				
評価	B					

R6年度（年度末改善方針を記入）

Action(改善)	
R6実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画	- 幽霊団員等の処遇見直しを継続して行う。 - 補助金等を活用し消防団員の装備の充実を図る。（R6年度は雨衣を整備予定。）

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	町道及び橋梁の計画的な整備と長寿命化計画		所属	地域整備課	SDG s	9
事業（細目）名	道路維持事業			事業番号	1170	
総合計画	基本理念	安全・安心に暮らせる健康長寿のまちづくり				
	視点	②環境整備	事業番号	6	連番	55

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	町道の適切な維持管理を行い、住民の安全確保を図る。
Plan(事業概要・計画)	・町道の維持管理を行い、住民生活の利便向上と安全確保を図る。 ・除草等の町道維持を行う集落・団体に交付金を交付する。

R6年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)	R6実績額		16,286,190円			
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	修繕費・工事費	千円	14,431	11,903	11,895	82%
②	道路愛護	件	9	11	17	122%
③						
実施内容	・町道田中町線横断溝改修工事、町道関屋黒本線横断溝改修工事 ・町道坂原錦橋線陥没修繕、町道関屋黒本線樹蓋修繕、町道上茶屋線上茶屋橋前舗装修繕 外 ・道路等愛護事業 11件申請 ・道路台帳現地調査業務					

R6年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適應しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	道路敷や道路側溝等、道路施設の老朽化が進んでおり、それに伴う道路維持費の負担が大きくなっている。数ある修繕箇所の優先順位づけができておらず、計画的な修繕発注ができていなかった。 今後は直営修繕によるコスト削減をはじめ、限られた予算で効率的な修繕を意識する必要がある。					

R6年度（3月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：事業の妥当性は高いが、さらなる効率的な運用が可能と考える。				

R6年度（3月末に記入）

Action(改善)	
R6実施内容の改善及び見直しの上、R7の方針・計画	
住民生活の利便性向上と安全確保のため、引き続き同様の維持管理を行っていくことを基本的方針とし、大雨をはじめとする自然災害や多様化する集落から要望について即時対応する。	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	町道及び橋梁の計画的な整備と長寿命化計画			所属	地域整備課	SDG s	9
事業（細目）名	緊急自然災害防止対策事業				事業番号	2103	
総合計画	基本理念	安全・安心に暮らせる健康長寿のまちづくり					
	視点	②環境整備	事業番号	6	連番	55	

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	鳥取県が策定した国土強靱化計画に基づき、同一路線または接続路線において舗装修繕を実施することで対象エリア、路線の予防保全を図り事業効果の増進を期待する。				
Plan(事業概要・計画)	・町道舗装の点検を実施し、点検結果に基づき対象となる舗装修繕を行う。（掘削オーバーレイ等） 町道芦津線、町道関屋黒本線、町道奥本河津原線				

R6年度（3月末に実績見込を記入）

Do(実行)		R6実績額		20,902,200		
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	施工路線数	路線	4	3	3	75%
②						
③						
実施内容		・ 町道芦津線、町道奥本河津原線、町道関屋黒本線の舗装修繕工事を実施。				

R6年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適応しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	予防保全のために舗装が必要な路線は多く存在している。このため緊急度、優先度を考慮し、予算確保を図りながら継続的な舗装修繕を実施する必要があるが、					

R6年度（3月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：	5か年加速化計画も令和7年度で最終年度となることから、継続を要望しつつ緊急度、優先度を考慮し継続的に事業を進めていく必要がある。			

R6年度（3月末に記入）

Action(改善)	
R6実施内容の改善及び見直しの上、R7の方針・計画	
事業実施には対象路線に限られるなど条件がつくが、町道整備（大規模舗装修繕）には欠かせない事業であることから、対策が必要な路線を洗い出し、計画的な整備を継続する。	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	町道及び橋梁の計画的な整備と長寿命化計画	所属	地域整備課	SDG s	9
事業（細目）名	道路メンテナンス補助事業		事業番号	2094	
総合計画	基本理念	安全・安心に暮らせる健康長寿のまちづくり			
	視点	②環境整備	事業番号	6	連番 55

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	町道橋梁の計画的な点検・補修による長寿命化を図る。
Plan(事業概要・計画)	・本町の長寿命化計画に基づき、町道橋梁の計画的な法定点検（5年に1回）を実施し、適切な橋梁補修を行う。 ・定期点検結果を踏まえた長寿命化計画の策定・更新。

R6年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)	R6実績額		44,482,900			
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	橋梁修繕工事	橋	5	7	4	140%
②						
③						
実施内容	・錦橋、十日市橋について修繕工事を実施。 ・宇波橋、3号橋（4）、1号橋（18）の修繕工事設計業務委託を実施。					

R6年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適應しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	・積算を行った際、概算額を大きく上回る場合がある為、予算計上の時点・工事発注見込みの時点においては熟慮する必要がある。 ・事業が進み、修繕未対応の健全度Ⅲと判定された橋梁が減ってきている。					

R6年度（3月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：	計画的に実施することで安全性が維持できるため、計画的に財源を確保しながら進めていく必要がある。			

R6年度（3月末に記入）

Action(改善)						
R6実施内容の改善及び見直しの上、R7の方針・計画	概ね、対策が必要と判定された物件については、対応済みとなってきた。 本事業は、診断結果（健全度）による修繕となるが、活用頻度と修繕に要する費用が見合わない案件も見受けられる。					

【施策 6】



住民の力を結集し、ICT を活用したきめ細やかな交通体系の構築

K P I

K P I 重要業績評価目標	目標値	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
体制づくり	構築	実証実験	共助交通運営 協議会設立	本格稼働	本格稼働
のりりん利用者	—	—	—	28,276 人	36,634 人
住民ドライバー	—	—	—	23 人	24 人

地域公共交通計画に基づく体制づくり（総合計画 No.Ⅱ-7）

令和 5 年 4 月 1 日に共助交通「のりりん」が本格稼働した。当初役場企画課での電話受付を行っていたが、10 月からコールセンターへ電話受付機能に移管し、オペレーター 5 名体制で対応している。

回数券、定期券販売所として地区振興協議会が加わった。

ドライバーは現在役場職員除いて 24 名が登録しており、日野自動車の協力によりシフト管理、乗車前後の点呼を実施。

一年間で約 4 万人の利用者があり、運行も安定して稼働している。

【本格稼働】

○稼働日：12/30～1/3 以外 6：00～19：00

○運賃：500 円/回（乗り合いの場合 400 円/回）

○受付：告知端末 or コールセンター

○回数券、定期券販売：智頭町観光協会、智頭・那岐・山形郵便局、病院売店

各地区振興協議会、役場

○乗車人数：別紙参照

○ドライバー：24 人（役場職員 10 人除く）

○ドライバー報酬：3,500 円/1 シフト（4 時間）+乗車数加算（5 乗車で+500 円、
10 乗車で+1,000 円、15 乗車で 1,500 円）

【課題】

乗車パスポートの作成からチケット購入、予約、配車状況確認等システム化されていない手続きが、旅行客等にとって利用しづらい環境のままとなっている。

また、夜 7 時以降の鉄道との接続や、夜間運行を希望する声も上がっているため、様々なサービスと合わせた企画チケットの開発によって、より利便性や交通付加価値の向上につながる可能性がある。

スマートフォンと連動したシステム構築など、より有利な財源を活用しつつ検討していきたい。

【貨客混載】

人、モノ、事を輸送することで新たなサービスの可能性を模索していく事業として、令和 6 年度地方創生推進事業で、のりりんの仕組みを活用した貨客混載事業を計画していたが、実証実験等の結果、現時点での導入は困難であると判断し、実現には至らなかった。

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名		安全・安心な町民バスの運行、更新		所属	企画課	SDG s	11
事業（細目）名		共助交通運行事業			事業番号	1634	
総合計画	基本理念	安全・安心に暮らせる健康長寿のまちづくり					
	視点	環境整備	事業番号	15	連番	61→II-7	

R6年度（4月記入）

Goal(目標)	新たな交通体系である共助交通の、安心・安全な公共交通サービスを提供する。				
Plan(事業概要・計画)	○AI乗合タクシー「のりりん」の本格稼働並びに安定的な輸送の実現、電話予約受付体制の整備 ○共助交通の認知度・利用拡大に向けた周知。（IP告知端末での予約推進、商工会との連携による利用促進サービスの検討） ○県の補助制度等を活用した共助交通の運営、安定的な運行サービスを維持するための住民ドライバーの確保。 ○住民ニーズに対応したシステムの改修、サービスの拡充・見直し。ドライバー教育等の随時実施による安心安全な交通サービスの提供。				

R6年度（年度末に実績見込を記入）

Do(実行)		R6実績額		67,460,291円		
活動実績を示す指標		単位	R5	R6(計画)	R6(実績)	対前年比(%)
①	AI乗合タクシー利用者数（乗車人数）	人	741	31,680	36,634	4275%
②	AI乗合タクシー運行収入	円	6775852	12,672,000	7,468,900	187%
③	システム改修・サービス拡充に向けた関係者協議	回	9	12	11	122%
実施内容		○AI乗合タクシー「のりりん」の本格稼働 ○既存サービスの拡充・利便性向上を踏まえたシステム改修の協議・検討の実施（KCME・ドコモ・日野自動車） ○安定的・持続可能な運行体制を整備するためのドライバー確保（ドライバーの運行に係る負担軽減等を踏まえた補助制度の創設） ○専用のオペレーションセンターの整備並びに共助交通推進員（オペレーティング業務）の確保				

R6年度（年度末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		○月間の平均輸送人数は3,000名を越え、住民ドライバー数についても20名を超えており、安定的な運行を実現できた。 ○運行体制の整備として、運行シフトについてはドライバー都合に大きく左右されるため、現在の住民ドライバー数（22名）以上を維持し続ける必要がある。また、安全第一が求められるため、随時交通法規の遵守・ドライバーの教育・指導が必須である。（安定的な運行を実施するため、ログデータを分析し、今後の配車体制等を検討する必要あり。） ○観光二次交通対策、町外向けの周知啓発活動など、利用者の利便性向上に向けた取り組みは今後も継続して検討・改善していかなければならない。 ○輸送人数はR5実績から比べて約8,400人の増であったが、運行収入としては約700,000円の増にとどまった。				

R6年度（年度末に記入）

評価	A	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
----	---	----	----	------	----	----

担当課長評価

評価	A
----	---

評価理由： 人口減少が続く中での新たな取り組み。まだまだ利用者は増えていくことが予想され、継続してドライバーの確保に努める。あわせてデータ分析による効率的な運行を実現させる必要がある。

R6年度（年度末に記入）

Action(改善)					
R6実施内容の改善及び見直しの上、R7の方針・計画					
		○町内の公共交通として、地域住民に対し安定的な送迎サービスを提供する。 ○観光二次交通向けに対応したシステムの改修、サービスの拡充。（スマートフォンでの登録・検索・予約・決済機能、予約の手間を省略できるような仕組みの検討。） ○ドライバー教育等の随時実施による安心安全な交通サービスの提供。（適性検査の実施等） ○乗車料金の見直し			